

第3号議案

地域自主戦略交付金事業（広域農道）

はるななんろくに きちく たかさきし

榛名南麓2期地区 高崎市

着工年度

平成15年度

評価理由

事業採択後10年

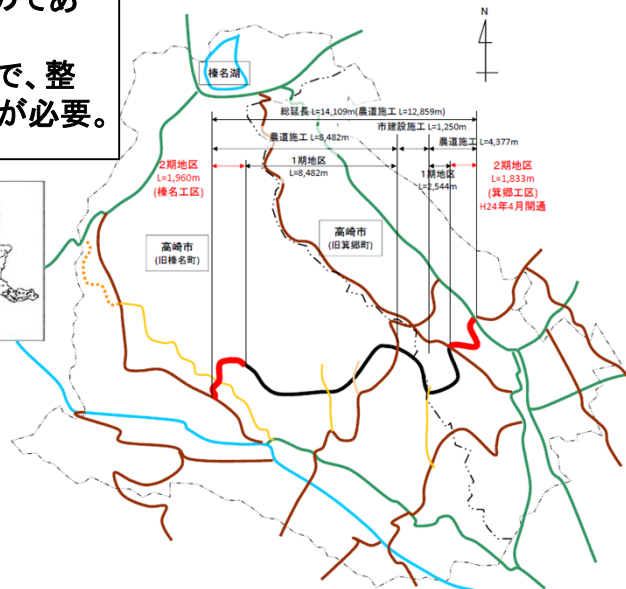
1. 事業の目的

本地区は、榛名南麓地域の果樹、野菜、畜産の有機的、一体的な農業振興を図るため、基幹農道を整備するものである。

また、1期地区については平成16年度に開通済みで、整備効果を十分に発揮させるためには2期地区の整備が必要。



農産物を運ぶ大型トラック
(芝桜大橋)



2. 事業概要と進捗状況

事業概要

事業場所	たかさしなかむろだまち たかさきみさとまちやばら 高崎市中室田町～高崎市箕郷町矢原		
区分	今回	計画変更時(平成19年度)	事業当初(平成15年度)
全体事業費	2,492百万円	2,395百万円	6,459百万円
全体事業費増減の理由		ルートの見直し	
事業期間	H15～H27	H15～H24	H15～H24
事業内容	道路延長 3,793m 幅員 7.0m	道路延長 3,793m 幅員 7.0m	道路延長 7,592m 幅員 7.0m

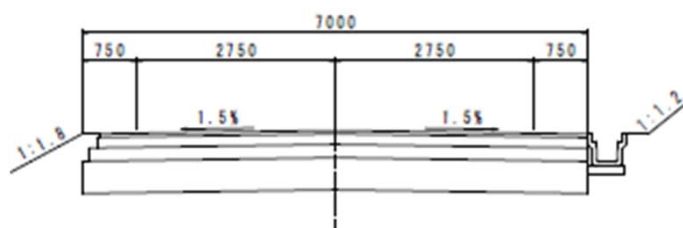
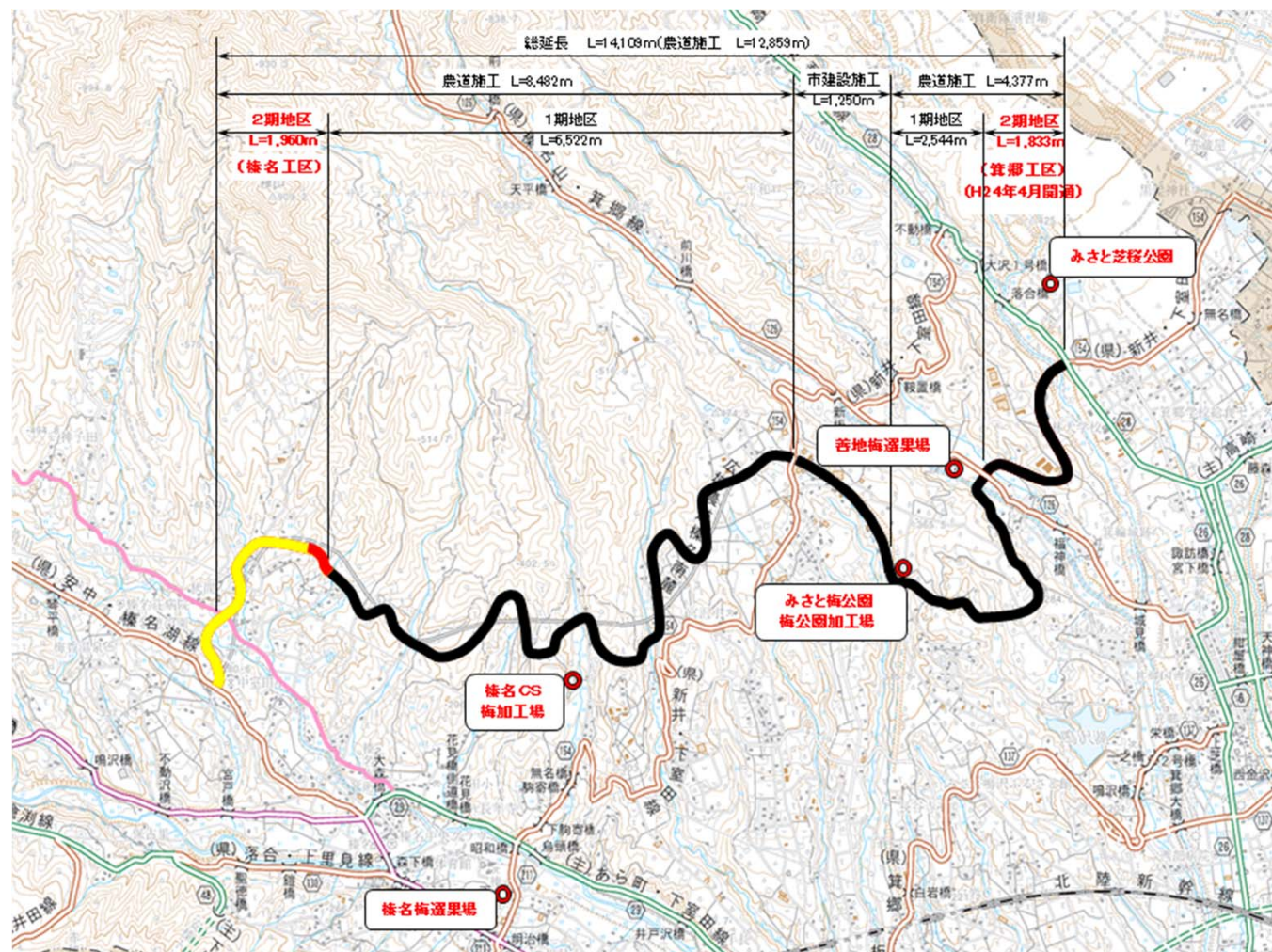
事業経緯

年度	主な経緯
H6	事業着手
H12	1期地区2期地区に分割
H15	2期地区着手
H16	1期地区開通
H19	計画変更(榛名工区ルート変更)
H23	榛名工区用地買収着手
H24	箕郷工区供用開始

進捗状況

	全体計画	現在の進捗状況 (進捗率)	前回評価時の進捗状況 (進捗率)
事業費	2,492百万円	1,636百万円 (65.7%)	—
用地買収	46,396m ²	21,023m ² (45.3%)	—
計画延長	3,793m	1,833m (48.3%)	—

2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)



凡 例	
	平成23年度まで
	平成24年度
	平成25年度以降

事業スケジュール

		H24	H25	H26	H27
工事費	道路改良				
	橋梁工事				
測量試験費	用地測量				
	橋梁設計				
	文化財調査				
用地費	用地買収				

3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

本農道の沿線には梅林が広がっており、近年では箕郷の梅の認知度が上がるなど、本農道沿線では梅を中心とした果樹栽培が盛んであるとともに、養鶏や酪農などの畜産業も盛んに行われている。

このことから、農業資材及び農産物生産物の流通の合理化を図ることにより、農業経営の改善を図る本農道の目的、必要性に変化はない。

また、沿線には箕郷芝桜公園や梅公園があり、これらへのアクセス向上により観光振興への寄与も期待される。



本農道沿線の梅林



本農道に隣接する梅公園

4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

榛名南麓地区全体延長14.1kmのうち、平成16年度に1期地区10.3km、平成24年度に箕郷工区1.8kmが開通したことにより、生産資材の搬入、農産物輸送に係わる経費の削減が図られている。

さらに、平成24年度に開通した箕郷工区では、計画を上回る交通量が観測されている。

(計画 970台/日 → 実測 1,129台/日)

しかし、1期地区が行き止まりとなっており、本事業の整備効果を十分に発揮させるため、榛名工区の整備による早期全線開通が望まれる。



箕郷工区 完成区間



梅加工場・牛乳クーラー・ステーション 搬出状況

費用便益分析

		計画・前回再評価時		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		土地改良事業における経済効果の測定方法		新たな土地改良の効果算定マニュアル			
基準年		H19		H23			費用対効果については、同一路線となる1期地区及び関連事業と併せて算出する
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	工事費	18,326,388	100.0%	15,681,349	92.9%		
	維持管理費			1,202,940	7.1%		
費用合計 (C)		18,326,388		16,884,289			
便益 (千円)	営農走行経費削減効果等	17,310,198	91.4%	17,192,293	94.1%		
	一般交通走行経費削減効果等	1,628,749	8.6%	1,069,923	5.9%		
便益合計 (B)		18,938,947		18,262,216			
費用対効果分析 (B/C)		1.03		1.08			

5. 事業が長期間要している理由は？

【 元々が長期計画

不測の事態により長期化】

榛名工区について、測量及び用地調査を始めたところ、強固な用地交渉難航者が3名おり、測量も行えない状況が続き、その対応に不測の年月を要した。

しかし、地元役員等から構成された推進委員会が中心となり交渉を重ねた結果、平成23年度に測量が実施できたことから、平成23年度は用地買収に着手した。

平成24年度は本格的に用地買収を進め、平成27年度の開通を予定している。



6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

本地区は、榛名南麓地域の農業経営の合理化及び農業振興を図る上で、重要な役割を担っている農道整備事業である。

1期地区を含め総延長14.1kmのうち12.1km(約86%)が開通済みであり、この区間が完成したことにより、生産資材の搬入、農産物輸送に係る経費の削減が図られている。

しかし、開通済み区間の西端は行き止まりの状況であり、早期に全線を開通させることにより、本農道の整備効果を十分に発揮させる必要がある。

このため、未買収地の用地交渉を進め、早期に用地買収を完了させ、1日も早い全線開通を図る予定である。